



「うしみつどき」って、どんなときなの

今の午前2時すぎ

「うしみつどき」(丑三つ時)とは、江戸時代までの時刻の呼び方で、今の午前2時すぎにあたります。丑三つ時とは、丑の刻(午前1時から3時ごろ)の三つこのころという意味です。丑の刻は4つに分けられ、そのうちの三つ目が、丑三つ時というわけです。昔から、人が寝静まった夜中の2時ごろを、「草木も眠る丑三つ時」などと表現してきました。

午後のお八つ

日の出、日の入りを基準にして、昼と夜をそれぞれ6等分し、九つ、八つ、七つ、六つ、五つ、四つとよぶ時刻の言い方もありました。昼の八つは、午後2時ごろにあたります。昔は、昼の八つごろに食べる間食を、お八つといいました。わたしたちは、今でも「おやつ」ということばを使いますが、それは、昔の時刻の呼び方のなごりなのです。

十二支を使った時刻の表し方

江戸時代までは、わたしたちが今使っている時刻を表す方法と、ちがう方法を使っていました。つまり、時刻を九つ・八つとよぶ方法と、十二支を使う方法がありました。十二支を使う方法では、午後11時から午前1時ごろまでを子の刻とし、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥の順に時刻を表しました。24時間を十二支で表現するわけですから、2時間が1刻にあたります。そうすると、丑の刻は、夜中の1時から3時ごろにあたるのがわかります。

(監修・田代 脩)

